

ミックスジュース

学級通信
鯉沢中3年生
2019年1月18日
No. 34
中学校生活が残り
40日をききました



道徳「一枚の葉」～日本の美を求めて～



読み物について

唐招提寺の障壁画が有名で、青の魔術師と呼ばれた日本画の巨匠 東山魁夷さん（1908－1999）が、庭の一枚の葉を見つめ、そこから自然の摂理を感じるととても奥深い読み物です。

一枚の葉の春夏秋冬、つまり、この葉の生涯に、私たち人間の一生を投影させたとき、私たちも自然の中の生き物の一つに過ぎないという思いを抱きます。自然に対しての謙虚さを失い、自分勝手に振る舞っている人類に、一枚の葉が静かに警鐘を鳴らしているのかもしれない。自然の力・神秘さ・美しさ・生命を感じ、生きとし生けるすべてのものへの感謝と尊敬の念（自然への畏敬）を抱くことのできる資料です。

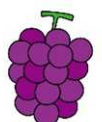
「自然への畏敬の念」を感じたエピソードをクラスで交流し、次のことを考えました。



クラスメイトの考えにふれて、あなたは「自然」をどのように受け止めましたか？

- ☪ 芽が出て、花が咲いて、いずれなくなるという一連の動作は、人間に感動を与えてくれる。日々感動を与えてくれる自然に感謝したい。その一つとして自然を守っていきたい。
- ☪ 自然は人間の生死に直接関わってくる。自然がないと人間は生きていけない。それなのに、人間は必要以上に木を切るし、自然を自ら手離そうとするのはなぜだろう。
- ☪ 違う生物同士が互いにつながっていて、役に立ち、自然が成り立っているのだと思った。その前に地球があること自体が奇跡だと思った。
- ☪ 自然があり、今、人間は生きることができている。他の生き物が死んでくれたおかげで、食べる物があって、楽しく生活することができている。だから、自分も、できれば自然に恩返しできるような生き方をしたい。
- ☪ 生と死を繰り返すことで、自然は静かに語ってくれているのだと思った。その美しさは百人一首や太陽、桜などにも現れていた。
- ☪ 私が好きな百人一首には、自然の歌がある。昔の人が素晴らしい歌をうたえたのは、四季折々の風景があったからで、それがなければ、百人一首は生まれなかった。

自分に与えられた生を大切に、同時にひとの生をも大切に、



その生の終わりの時、大地へ還って行くことは幸いと思わねばならぬ。 東山 魁夷